地域観光

パンフと動画各大賞を選定

地域活性化センター　四万十町と大鰐町

一般財団法人地域活性化センターはこのほど、地域の優れたパンフレットや動画を表彰する「地域プロモーションアワード（旧地域プロモーション大賞）」について、「ふるさとパンフレット大賞」に高知県四万十町、「ふるさと動画大賞」は青森県大鰐町が受賞したと発表した。

パンフレット大賞には109点の応募があり、大賞をはじめ優秀賞や南伸坊賞（審査委員長）など7点を選んだ。

四万十町の作品は「シマントチョウ　シアワセブック」。町の自然や日常風景などを撮った写真を多く使い、「キャッチコピーは誇張せず、ありのままの表現で伝えている」（にぎわい創出課）という。

審査員からは「水の写真が奇麗で、これだけでも幸せな気分になれる。ガイドブックとしての実用性も兼ね備えている」など、高い評価を得た。

このほか、優秀賞は岩手県普代村の「普代村を守った奇跡の水門」、南伸坊賞は北海道美唄市の「BIBAI DESTINATION GAIDO」が受賞。

動画大賞には143点の応募があり、計8点が選ばれた。大鰐町の作品は「家族のかたち、大鰐のくらし」。子育てをテーマに、町に住む家族（りんご農家）の何気ない姿を映し、大鰐暮らしの魅力を伝える移住定住のPRムービーとなっている。町の企画観光課は「大鰐温泉や主要産業であるりんごなどを映しつつ、何気ない暮らしの魅力を伝え、移住促進につながればとの思いから制作した」という。

審査員は「映像の美しさだけにとどまらぬ、強い企画があった。そこに町の意志が鼓動として聴こえてくる」「まさに移住に取り組んだ大作の風格があり、訴える力の強さに見入った」などと講評した。

優秀賞は新潟県佐渡市の「SADO GOLD &SILVER MINES For all Tourists」、箭内道彦賞（審査委員長）は京都府福知山市の「コンセプトムービー『光秀マインド』」、秋吉久美子賞（女優）は岐阜県郡上市の「The snow landscape of Japan, s heartland」が選ばれた。

無料タクシーサービス開始

道後温泉旅組と伊予鉄タクシー

女性観光客の集客狙う

愛媛県松山市の道後温泉旅館協同組合と伊予鉄タクシーは、旅組に加盟する旅館・ホテルの宿泊客を対象に、市内の観光スポットなどをタクシーで案内する無料サービスを期間限定で始めると発表した＝**写真はイメージ**。12月20日から予約を受け付けている。

観光庁の「既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業」の認可を受け、実施。コロナ禍で観光客が減少する中、「全国に愛媛、松山の新しい魅力を提案、集客を図る」としている。

タクシーは1月11日～2月28日の平日に運行。地元情報誌の編集者が選んだ周遊プラン3コース（港町迷宮のアート巡り三津浜地区散策▽開運パワースポット探偵団　癒やしと神秘の松山巡り▽女性ドライバー限定　パンタクシー）から一つを選ぶ。いずれも所要時間は3時間半。

例えば、パンタクシーは女性ドライバーが、厳選した店に連れて行ってくれる。

道後温泉は楽天トラベルの「おんな1人旅に人気の温泉地ランキング」で4年連続1位に選ばれており、女子旅に人気がある。無料タクシーも主に女性をターゲットにしている。

愛媛県

新宿泊キャンペ実施

割引の対象者を拡大

愛媛県は12月23日、新型コロナウイルスでダメージを受けた観光業界を盛り上げるため、新たな宿泊割引キャンペーン「疲れたら、愛媛。新みきゃん割」の受け付けを開始した。割引の対象者を拡大、幅広く集客する。

対象期間は1月4日～3月10日（3月11日チェックアウト分まで）。上限を5千円として、県内での宿泊代金の50％が割引される。12月23日から県内の旅行会社の窓口で予約受け付けを開始。1月以降は準備が整い次第、OTA（オンライントラベルエージェント）でも受け付ける。

これまでの「みきゃん割」は県民を対象として割引を受けるには、旅行会社や宿泊施設でワクチン接種証明書、または陰性証明書を提示する必要がある。

ゆかりある人が集まり

頑張れプロジェクト

山鹿温泉

熊本県・山鹿温泉ではコロナ禍で温泉地など観光地が苦しむ中、「山鹿市を応援したい」という山鹿市にゆかりがある人が集い「頑張れ『山鹿の湯』プロジェクト」が行われている。

プロジェクトは、山鹿市出身の女優・芋生遥さん、小説家・古川春秋さん、山鹿市に縁がある落語家・桂竹紋さんが、経済環境などコロナ禍で苦しむ山鹿のために何かできないかと企画を立案して実現。プロジェクトでは、山鹿温泉に宿泊し、

誘客を呼び掛ける山鹿温泉よへほ女将会

山鹿のなぞかけ「山鹿温泉とかけましてヨーロッパとときます　その心は〇～〇～だなぁ」に答えた人を対象に、先着で①芋生遥さんの特技である書道で諦めない力強さを表現した直筆の「山鹿の湯タオル」②古川春秋さんによる「温泉のような温かい話」を書いた小説―をプレゼントしている。

今回のプロジェクトには、山鹿温泉、平山温泉などにある山鹿市内の旅館など約10軒が参画している。

山鹿温泉清流荘の平井英智社長は「コロナ禍で大勢が苦しむ中だからこそ、地域の結束が必要。来年は参加施設の規模をさらに拡大し、地域が一丸となって山鹿を盛り上げていきたい」と話す。

農旅連のかじ取り

菅野　豊会長理事に聞く

焦点インタビュー課題

組織再編など3事業展開

ローカルティーを大事に

――コロナ禍で観光、旅館業界が大変な時での農協観光協定旅館ホテル連盟の会長就任となった。

「大勢のお客さまに支えられる旅館は3密が当たり前だった。それがこのコロナ禍でできなくなった。業界としてこれは一つの危機だと思うが、3密にならず、安心安全な商品造りが求められるようになった。コロナ禍の影響は大きいが、旅館の在り方を考えるいいきっかけになった。いろんな意味でね。こういう問題が起きないと労務効率の悪さや生産性の低さは改善しないのではないかと思う。もの考えようで、その意味ではこの時期の就任もそう悪くはない」

――JAをバックにする農協観光は大手など他の総合旅行会社とはやや立ち位置が異なるが、どう捉えているか。

「団体旅行を扱い、かつ平日に送客してくれること。農協観光の主要顧客は農協さんであり、そこをしっかりと押さえておけば十分やっていけると考えている。コロナ禍で団体旅行は減ってはいるが、なくなることはない。農業は国の基本だ。農業に従事する人がいる以上、農協観光のお客さまは存在している」

――会長に就任して、これからどんな事業展開を考えているか。

「三つある。まず一つは旅連の組織再編を計画通り進めること。農協観光の組織機構のスリム化に伴い、現行の『本部―支部連合―県支部』体制から、2022年度には『本部―圏域エリア支部（統括支店単位）』体制に移行する。新組織がスムーズに機能するよう、会員に周知徹底する」

「二つ目は地元の農協組織との結びつき、関係を強化すること。これが意外に抜けている。農協さんの旅行を農協観光が全て手掛けているわけではない。他の旅行会社が扱っている場合もあり、取りこぼしがある。そうならないためにも農協さんとの関係を強め、農協観光を通じて、旅連会員の施設を利用してもらうようにする」

「三つ目は農協観光の強みを再確認し、営業に新たな切り口を加え、身近な農協観光になってもらう」

「われわれの相手は農協さんであり、ターゲットはっきりしている。農協さんといえば中高年のイメージが強いが、青年部や女性部などいろいろな組織がある。それらをターゲットにするのだから営業的にはやりやすいのではないか」

――組織再編の影響は。

「全体的に組織がスリム化するわけだから人数も少なくなる。営業能力の低下も考えられるが、少数精鋭主義でがんばりたい」

――旅連会員はいま1100ほどだが、この数字に関しては。

「まだまだ少ない。入会しているメリットがないと判断すれば退会する会員もいる。一番大事なことは旅連に入って良かったと思ってもらうことだ。私としては農協観光に対し会長としてきちんとものを言い、双方が良くなるよう努める。農協観光の良さがまだまだ伝わっていないし、今後会員増強に向け、引き続き強力に取り組んでいく」

――コロナも落ち着きを見せ、緊急事態宣言も解除された。だんだんと人が動くようになってきた。実感はあるか。

「福島県でも県民割が始まったが、予約の電話がずいぶんと入ってきている。それでもコロナ前の水準には戻っていない。完全に戻るのにはあと1～2年かかると思った方がいい」

――旅行者の意識に変化はあるか。

「露天風呂付き客室など高価格帯の客室から埋まっていく。最近、若い人が露付きに泊まるようになってきた。自分たちの世界を大事にしたい、人と関わりたくないという意識が強いのかな。食事は朝夕とも部屋出しで、部屋の中で完結するようになってきた」

――農協観光に期待することは。

「地元、ローカルティーを大事にしてほしい。東北は東北らしさ、関西は関西らしさというか、その土地ならではのオリジナリティーがある。それを土台にした商品造りを行い、提案していってほしい。また、農協観光と旅連の人間関係も大事だ。それを大事にしていれば大丈夫だと思う。行きつくところは人。それに尽きる」

かんの・ゆたか　日本大学工学部卒。ホテル華の湯会長。2009年農旅連理事、14年常務理事、17年副会長・東北支部連合会会長を経て、21年7月1日会長理事就任。福島県郡山市出身。74歳。【内井高弘】

体験型観光が日本を変える〈241〉

体験教育企画社長　藤澤　安良

2021年は、新型コロナウイルスの感染者数が年末には少し落ち着いた。しかし、12月から世界的にはオミクロン株が増え続けており、12月20日、米国ではオミクロン株に置き換わっている割合が73・2％に達したと公表した。日本でも当面の間、空港検疫等の水際対策強化を継続するとしている。

そんな中、年末年始の帰省や旅行での予約状況が19年には及ばないが、前年に比べてJR各社で1・8倍や航空各社1・4倍と大幅に増加している。お正月と2回のお盆に帰省できなかった人々には2年ぶりとなる。

このまま感染者が増えず、無事に帰省や旅行が実現することを望みたい。

21年末の出来事にみる日本

さらには、このまま、感染者の抑え込みがうまくいけば、観光業界が待ち望んでいるGo To事業再開が実現する。しかし、国の補助金や交付金を巡っては虚偽申告による不正も少なからず発生した。

システムはもちろん、そのような行為に及ばなければならない社会的な背景を探らなければ再発することになる。

社会的背景といえば、19年7月、京都アニメーション第1スタジオ放火殺人事件は、社員36人が死亡、33人が重軽傷と過去に例を見ない大惨事となった。

12月17日、どうやらその事件を模倣したとも言われている大阪ビル放火事件が起こり、25人の尊い命が犠牲になった。そんな大惨事になるような犯行を計画した容疑者の動機につながる社会的な境遇や、心理的な状況も解明され、このような事件の再発防止のために何が必要なのか考え、教育や社会の仕組みなど対応策が必要である。

また12月21日、政府の中央防災会議の作業部会が北海道から東北地方にある日本海溝・千島海溝沿いでの、マグニチュード9クラスの地震が起きた場合の被害想定が発表された。冬の深夜の場合は東日本大震災の10倍を超える約20万人の死者が出るとし、防災対策を求めた。求めに応じて政策を推進してほしいものである。

12月18日、宮城県と青森県とを結ぶ「三陸沿岸道路」が全ての区間で開通し、東日本大震災のあとに進められた総延長実に570㌔に及ぶ復興道路と復興支援道路の整備事業は全て終了した。

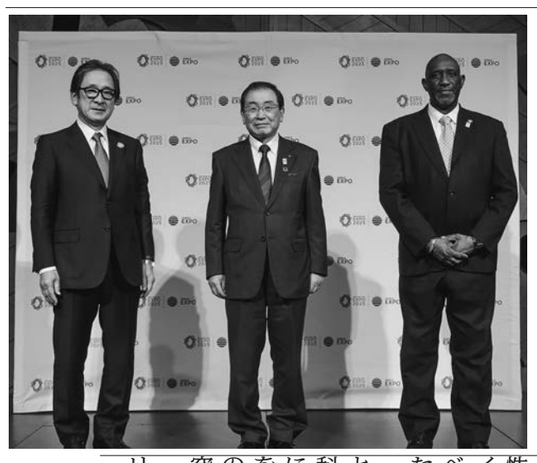
その次の日、実際に久慈市から八戸までレンタカーで走ってみたが、片側1車線区間が多いものの交通量からして渋滞はなく快適であった。海岸から少し離れており、標高も高く、津波の影響を受けないルートである。

東北道から沿岸地域まで2時間程度かかっていたが格段に早まり、仙台から八戸まで縦にもつながり、通行料も無料で、三陸復興国立公園地域の観光地や、久慈市や田野畑村などの体験型観光を推進する地域にとっては、この道路の完成は大きな交流人口拡大の起爆剤になることは間違いない。

しかし、それには自然体験、農林水産業体験や、田舎の現状を深く理解するSDGsプログラム整備、命を守る防災教育などの地域を訪れる目的提案が不可欠であり、それに向けて行動すべき時である。沿線地域の未来がかかっている。

副会長に2氏が就任

博覧会協会　浅川氏、サコ氏



（右から）サコ副会長、十倉会長、石毛博行事務総長

「2025年日本国際博覧会協会は12月15日、浅川智恵子（日本科学未来館館長、IBMフェロー）、ウスビ・サコ（京都精華大学学長）両氏の副会長就任を発表した。記者会見で十倉雅和会長（経団連会長）は「多様性の中からさまざまなアイデアが生まれる」と述べ、両氏の活躍に期待した。

浅川氏はIBM勤務とともに2021年に日本科学未来館の2代目館長に就任。自らが視覚障害をもつ立場から、障害者のアクセシビリティの研究を進めている。

サコ氏はアフリカのマリ共和国出身。京都大学大学院を修了し、工学博士として居住空間、コミュニティ再生などの調査研究を行う。

会見でサコ氏は「途上国の参加を支援するとともに、世界の広場のような万博になれるよう、これまでの研究成果を生かしたい」とコメント。浅川氏は「年齢や国籍、障がいの有無を問わず、誰もが参加しやすく、楽しめる万博運営を実現したい」と書面でメッセージを寄せた。

前橋市で2月27日

ONガストウォーク

群馬県の前橋ONSEN・ガストロノミーツーリズム実行委員会（事務局・前橋観光コンベンション協会）は、第2回「ONSEN・ガストロノミーウォーキングin前橋・赤城スローシティ」を2月27日に実施すると発表した。

場所は21年と同じ粕川・大室地区。赤城山を水源とする粕川の澄んだ水を使った食や農産物、歴史文化、自然環境を大切にした「スローなまちづくり」を進めており、歩きながらそれらを実感してもらう。

約8㌔のウオーキングルート上に酒蔵やイチゴ園をはじめとした5カ所のポイントを用意。ブラウンスイス牛のミルク100％の手づくりチーズや地元野菜と県産豚肉を使用した「まえばしton汁」、もち米を使った甘口の地酒などを味わってもらう。

途中には100㍍級の前方後円墳が並ぶ広大な古墳公園もある。

参加費4千円。200人を募集する。問い合わせは事務局、☎027（235）2211。

おもてなしクーポン発行

飯能市

奥むさし飯能観光協会（埼玉県飯能市）は、プレミアム付きクーポン券「飯能おもてなしクーポン」を発行した。市内宿泊の誘客と、クーポン券を活用した観光客の回遊促進による地元消費の活性化を図るのが狙い。

市内の旅館・ホテルやキャンプ施設に泊まった人が対象。販売価格は1セット500円。飲食店や土産物店など約60軒（12月2日現在）で2千円相当分使える。利用期間は1月31日まで。名栗温泉大松閣、奥むさし旅館、飯能第一ホテル、喜多川キャンピングベースなど約14施設で販売する。

こんにゃくパークに観覧車

こんにゃくを楽しく体感する施設、こんにゃくパーク（群馬県甘楽町）に県内で一番小さい観覧車＝**写真**＝がお目見え、1月2日から営業を開始すると共に、愛称の募集も始めた。

観覧車はイタリア製で、直径約8㍍。1周30秒で2周する。ゴンドラは8台あり、1台あたり子ども4人が乗れ、大人1人が同乗する際は子ども2人となる。利用料は200円。

愛称は1月末まで募集。大賞にはマナンちゃんぬいぐるみやこんにゃくとデザート製品を贈る。詳細はウェブサイトに掲載している。

伊東市、2月にまくら投げ大会

静岡県伊東市は2月26、27の両日、市民体育センターで第10回「全日本まくら投げ大会in伊東温泉」を開催すると発表した＝**写真はポスター**。2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止となったが、「21年度は満を持しての開催を予定している」（観光課）という。

同大会は地元高校生の「市にたくさんの若者を誘客したい」という思いから始まったスポーツイベント。ユニホームである浴衣を着て、40畳のフィールドで枕や布団を使って熱い戦いを繰り広げる。

1チーム8人（選手5人、サポート3人）編成で、32チームが競う。現在、参加者を募集中。参加費は1チーム5千円（損害保険料含む）。問い合わせは市観光案内所、☎0557（37）6105。

当日はワクチン接種証明書、もしくは検査による陰性証明書を提示する必要がある。

ゴディバと連携、越前漆器PR

福井県は1500年の歴史を持つ「越前漆器」のPRを行っている。11月25日から12月25日まではGODIVA（ゴディバ）と連携し、「ふくいそばGODIVAマリアージュキャンペーン」を実施。越前漆器と福井の食、チョコレートが楽しめる企画で、幅広い層に伝統工芸の魅力を伝えた。

越前漆器は、6世紀に継体天皇が越前国を訪れた際に、壊れた冠の修理を漆の塗り師に命じたところ、技術の高さに感動し、漆器産地として奨励されたことから始まる。現在は外食産業など業務用漆器生産量の国内80％のシェアを持つ。

今回行われたゴディバとの連携では、期間中に県内89店舗でそばを注文した人に、そばと相性が良いというダークチョコレートをプレゼントするほか、そばとチョコレートを使った揚げそばチョコやそば粉のフィナンシェなどオリジナルメニューが12店舗で提供された。また、そばとチョコレートの両方が入った写真をインスタグラムに投稿した人を対象に、抽選で越前漆器「バロタン（チョコレート用小箱）」＝**写真**＝とゴディバチョコレートがプレゼントされた。